

おおとり会だより

おおとり会基金へのご協力に感謝!

会長 鈴木 明 美 (被服学科・大学二回生)



吹き乱れる桜の花に感動し、満開の蓮の花に癒され、風に揺らぐ萩の花に秋を感じ、確実に季節は巡っていますのに、新型コロナウィルス感染症拡大により、世界中が一変してしまいました。一年前には想像もできないことでした。

会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。会議も授業もオンライン化が進み、人との関わり方も大きく変わりました。世の中の価値観までも変わってしまったように感じています。おおとり会活動におきましても、大きな影響を受けました。毎年開催してきました総会は、感染状況が悪化していく中で、ご出席くださいます先生方や会員の皆様の安全・安心を守るために、中止の決断をさせていただきました。早くこの事態が収束し、平穏な日々が訪れますことを願うばかりです。昨年、この紙面において「おおとり会存続にご支援を」とお願いいたしましたところ、早速に、大勢の皆様から、心温まる基金をお寄せいただきました。厚く御礼申し上げます。

総会中止、剣祭中止と意気消沈しております時に、皆様から続々と寄せられる温かいお心遣いに、大きな力をいただき、大変勇気づけられております。このように、おおとり会は、皆様に支えられて存続していることを改めて強く感じています。今後は、コロナ禍を乗り越え、役員一同、力を合わせて、今できることから活動を進めてゆきたいと思っております。

おおとり会では、昨年度ホームページを開設しました。その中で最新のニュースを掲載しておりますので、皆様との交流の場として是非ご活用下さい。また、おおとり会だよりで会員の皆様のご活躍ぶりを知ることが、本当に嬉しいことです。是非、皆様からの情報をお寄せ下さいませようお待ちしております。

昨春、県立大学ホームページにおいて、鬼頭学長先生から、緊急学生支援のための寄附金募集への協力要請がなされました。コロナ禍により、アルバイト先がなく、修学困難な学生さん達を支援しようという取り組みに、おおとり会として、一週間後に支援金を送付させて頂きましたことをご報告致します。少しでも学生さん達の支援に繋がるとを願っています。

最後になりましたが、鬼頭宏学長先生、学生部長小林公子先生、小谷和之学生室長様には、いつもご理解・ご支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

恩師の先生方、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶にかえさせていただきます。

理事会から〜新型コロナウイルス感染症拡大の中で〜

◎令和二年度おおとり会総会中止

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、おおとり会総会が中止となりました。令和元年度秋から、イベント係が中心となって会場の設定・交渉、総会後のイベントの企画交渉等、様々な準備をしてきましたが、大変残念な結果となりました。総会の緊急中止という初めての事態に対し、会員の皆様への連絡は、一昨年開設したばかりのホームページを活用し、さらに各クラス幹事へ葉書で通知することで、最善の対応を尽くしました。

◎おおとり会基金へのご協力に感謝申し上げます。

総会は中止となりましたが、昨年のおおとり会だよりでご協力をお願いしました基金については、三十四名もの皆様から、一〇〇万余円もの、多大なご協力をいただきました。(二月三十一日現在)誠にありがとうございます。コロナウィルス禍ではありますが、貴重な基金として有効活用してまいります。

◎静岡県立大学への緊急学生支援のための寄附金

令和二年五月十五日、県立大学ホームページ上で、鬼頭宏学長から「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援のための寄附金募集」のお願いが掲載されました。

おおとり会では令和二年度おおとり会総会として準備していた予算から、二十万円を寄附致しました。アルバイト先がなく、修学困難な母校の学生たちへの支援になればと願っております。

◎はばたき寄金

令和二年度の「おおとり会賞」は、三頁に掲載の二団体に授与されました。

◎令和二年度静岡県立大学「剣祭」の開催が中止となり、おおとり会としてのイベントも不参加となりました。

◎静岡県立大学同窓会連合会について

令和元年十月に発足した同窓会連合会も、昨年八月から毎月リモート会議となりました。連合会としての組織の形態・運営方針・規約などが話し合われています。

◎令和三年度おおとり会総会について

コロナウィルス感染予防を第一と考え、総会は、議事の報告・承認を中心とした縮小形式で六月十三日(日)に開催する予定です。詳しくは、同封の別紙をご覧ください。



輝く女性シリーズ VI



『令和二年 春の褒章』

青木則子さん

藍綬褒章

昨年四月二十九日に、春の褒章が発表されました。今回、静岡県内の受章者十八人のうち公共的な職務に貢献した人に与えられる『藍綬褒章』が、青木則子さんに贈られました。
おめでとうございます。

寄り添って二十二年

青木 則子

(英文学科・短大十一回生)



私は、平成十年五月保護司を拝命し、令和二年五月退任するまでの二十二年間、国の機関である法務省保護観察所の専門官と協働で罪を犯した人々の社会復帰と、再犯防止活動に取り組んできました。

担当する事件は、少年非行から成人事件まで保護観察になった事件が対象です。

具体的には、刑務所や少年院にいる人の帰ってくる場所の生活環境の調整や、保護観察に付された者と月二回面談し、約束事を守ることの指導、生活上の助言や就労の支援「更生」の仕事と地域住民や学校での「犯罪防止」の啓発活動が主な業務です。

私をはじめ担当したのは、非行を繰り返した少年院送致となった少年でした。少年院で面会した彼は、丸刈りのあどけない、人懐こそうな表情で私の問いかけにはきはきと受け答えできる明るい少年でした。面会時間はわずか三十分でしたが、その時の様子を少年は後日「こんな

に話を聞いてもらったことは今までになかった」と喜んで実母に話されたということでした。私の思いが彼のところに届いたことがうれしく、このことが保護司としてのスタートを後押ししてくれました。以来傾聴を基本に対象者と向き合ってきました。

出院後の面談では、指導するというより何気ない会話で彼の緊張をほぐし気持ちよく話せる場づくり、ほめて自信をもたせることを心掛けました。しかしながら新米保護司である私にとって最初からうまくいくはずはありません。来訪約束日であるにも拘わらず待てど暮らせど来訪のない対象者に対して、当時の私には来るまで待つという心のゆとりもなく、痺れを切らし携帯に電話することもしばしばでした。

その後、少年たちを複数人担当するようになって共通して見えてきたものは、社会生活を営む上での基本的な事柄を身につける家庭環境に恵まれなかったということです。面接では言動を注視し、背景にあるものを理解し、まずは共感を伝え、気持ちに寄り添うことに努めました。

処遇は面接に始まり面接に終わると言われます。しかしながら多様化する現代社会にあつて対象者の抱える問題も複雑多岐にわたります。ひとり親世帯、ひきこもり、精神に障害を抱える者、薬物依存症者、帰住先や仕事の見つからない高齢者等、いろいろな条件が複雑にからみあつて起きる事案等、どれひとつとっても同じケースはありません。傾聴のみでのりきれものでもありません。

私が保護司を拝命した二十数年前と違い地域力、家庭力も機能不全に陥っている現代、保護司にかかる負担も増していると感じています。

私が担当した三十歳前半の女性は、中学生の頃の不登校がきっかけでひきこもりとなり、中学校卒業後は定職に就くことはありません



葵区城東福祉エリア内「地域交流まつり」

せんでした。その間社会からの支援はなく、あげくの果て家族から見放された彼女は、収入を得るため就職活動をするも職種は限られ、担当者である私の就職情報不足も重なり、ハローワークをはじめ民間の就労支援機関等の支援をいただき就労にこぎつくまでには随分時間を要しました。



中央：田辺静岡市長

自身の経験からも他機関との連携の重要性を痛切に感じ、その後国のご支援もあつて、平成二十四年保護司会としてサポートセンターを立ちあげ、更生保護の拠点として保護司会員の処遇相談対応や研修の企画、また更生に資する機関の開拓、特に福祉関係との顔の

見える関係づくりには重点的に取り組みました。私たち保護司の最終的な願いは、罪を償い、再出発しようとする人たちが、地域の方々に温かく迎えられ、再犯のない地域づくりです。国も今、「再犯防止推進法」の施行に伴い、少年院での高校教育や満期出所者の支援が検討されていると聞きます。保護司会としては毎年七月を「社会を明るくする運動」の強調月間及び再犯防止啓発月間として、運動を通し、罪を犯した人たちの更生に対する理解を深めていただくために、行政や地域の諸団体と協力し活動を展開しております。しかしながら、一般の方々

にまで理解が進まないのが現状です。犯罪者や犯罪被害者を出さないためにも犯罪者を排除するのではなく、地域で温かく見守っていただくことで立ち直りができると信じています。

最後になりましたが、このたびおとり会の会員の皆様にご紹介する機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。



上川法務大臣、サポートセンター葵を視察

私たちの同窓会

『おおとり会』という名称は、 どのように命名されたのでしょうか？

昨年の夏、鈴木会長に送られた、恩師神谷真太郎先生のお手紙の中に、『おおとり』という字について、左記のような文章がありました。私達にとつて大変参考になると思いますので、神谷先生にご了解いただき、転載させていただきました。

「おおとり」を漢字で書くとする、大鳥・鵬・鳳・鴻の四文字が考えられますが、前三者は単に大きい鳥という意味ではなく、やはり鴻の字がふさわしいのではないのでしょうか。女子大最古参の教授の一人であった秦鴻四先生が学生の間に絶大な人気があったので、同窓会名命名の名手江崎幸子先生(当時講師)が、鴻の字をヒントとして提案したのではないかと私考して居ります。在任中に江崎教授に「おおとり会」の名称由来を確かめて置けばよかったですね。

鴻志、鴻鵠の志のように広く、大きくの意味が有りますね。
クラーク博士の言葉に、「少年よ、大志を抱け」という文句が有名ですが、女子大の場合は、「少女よ、鴻志を持って世に羽ばたけ」という意味でしょうね。
あと最後の「一兵となるまで、四〇・五〇年は続くであろう」「おおとり会」の今後の鴻大な発展を祈って止みません。

さて、このお手紙から、あらためて、『おおとり会』という名前が、どのように名付けられたのか調べてみました。

『おおとり会』という名称は、一九五三年(昭和二十八年)に『静岡女子短期大学同窓会』が発足したその数年後に、会員から候補名を募り理事会で投票が行われ決定したという記述がありました。何人かの先輩方にお尋ねしてみると、広く、先生方や、在校生、卒業生にまで募集をしたのだそうです。では、どのような名前が候補に上がったのでしょうか？また、どんな方が「おおとり会」という名前を提案されたのでしょうか？

何かしら興味深いエピソードがあったのでしょうか？ 神谷先生のお手紙は、私たちの想像力をかきたてます。会員の皆さんの中で、何かしらご存じの方がいらつしやいましたら、ぜひ情報をお寄せ下さい。

コロナウイルスが猛威をふるう中、現在の大学では、オンライン授業が主流となつて、学生たちは直に交流することができなくなつてきているのか。私たちが学生時代に五感を通して体験してきた思い出を、たどつてみるのはいかがでしょうか。

追記：このコラムのきつかけを作つてくださった神谷先生の訃報が、昨年未届きました。

第九十九代内閣総理大臣 菅義偉氏の夫人 菅真理子さんは、
静岡県立静岡女子大学家政学部卒業生です。



はばたき寄金

令和元年度『おおとり会賞』は、左記の二団体が選出されました。
表彰式は、例年開学記念行事で行なわれておりました。今年は中止となり、県立大学よりお渡ししていただきました。

静岡県立大学コーラス部

入学式や卒業式などの本学の式典に於いて本校校歌を歌い継いできました。令和元年度には、静岡市主催のSDGs普及会にも、コーラス部以外の学生も巻き込んで参加しました。美しいハーモニーを、これからも皆さんにお届けできるように励んでいきます。



Food Labo

地域食材を使った地元企業との共同開発や食品を使った実験教室の開催など、食と地域を結ぶ活動をしています。
今迄、本学の外壁のレンガと芝生園地をイメージしたチョコレート開発などを行ってきました。現在は、清水の枝豆を使って
効率良くたんぱく質を摂るための新しいレシピを開発しています。
おおとり会賞受賞を本当に嬉しく思っています。



SDGs

国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」



静岡県立大学



清水の枝豆

令和元年度 決算報告書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

総収入 7,196,850円 総支出 1,208,912円 残高 5,987,938円(繰越金)

(単位：円)

収入の部					支出の部				
費目	予算額	決算額	増減	備考	費目	予算額	決算額	増減	備考
預金利息	5,000	2,258	-2,742	定額貯貯・通常貯貯	事業費	200,000	200,746	746	総会、剣祭
基金入金	500,000	417,963	-82,037	153件	会議費	150,000	119,956	-30,044	役員会、理事会、会報、名簿・イベント各委員会、HP作業部会
剣祭収益金	10,000	2,900	-7,100		印刷費	20,000	8,382	-11,618	会議用資料、総会資料印刷
					通信費	20,000	13,374	-6,626	会議通知、来賓案内状、連絡等
					慶弔費	50,000	10,000	-40,000	謝礼
					事務・雑費	50,000	8,437	-41,563	印刷用紙、文具等
					平和大松印刷	220,000	225,064	5,064	会報、総会案内
					株サラト	680,000	622,953	-57,047	会報・総会案内発送業務、データ管理、HP作成管理
					予備費	30,000	0	-30,000	
小計	515,000	423,121	-91,879		小計	1,420,000	1,208,912	-211,088	
前年度繰越金	6,773,729	6,773,729	0		次年度繰越金	5,868,729	5,987,938	119,209	
合計	7,288,729	7,196,850	-91,879		合計	7,288,729	7,196,850	-91,879	

上記のとおり報告致します。

令和2年3月31日

会長/鈴木明美

会計/井上明子・大倉一美

監査の結果、相違なく適正と認めます。令和2年4月6日

会計監査/西脇里美・三浦育美

令和2年度 予算

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

総収入 6,502,938円 総支出 6,502,938円 残高 0円

(単位：円)

収入の部					支出の部				
費目	2年度予算額	1年度予算額	増減	備考	費目	2年度予算額	1年度予算額	増減	備考
預金利息	5,000	5,000	0	定額貯貯・通常貯貯	事業費	200,000	200,000	0	総会、剣祭
基金入金	500,000	500,000	0		会議費	150,000	150,000	0	役員会、理事会、会報、名簿・イベント各委員会、HP作業部会
剣祭収益金	10,000	10,000	0		印刷費	20,000	20,000	0	会議用資料、総会資料印刷
					通信費	20,000	20,000	0	会議通知、来賓案内状、連絡等
					慶弔費	50,000	50,000	0	弔電、香典、記念品等
					事務・雑費	50,000	50,000	0	印刷用紙、インク代、文具等
					サキデザイン社	220,000	220,000	0	会報、総会案内
					株サラト	600,000	680,000	-80,000	会報・総会案内発送、データ管理、HP管理費
					予備費	80,000	30,000	50,000	
前年度繰越金	5,987,938	6,773,729	-785,791		次年度繰越金	5,112,938	5,868,729	-755,791	
合計	6,502,938	7,288,729	-785,791		合計	6,502,938	7,288,729	-785,791	

*他費目への流用を認める

前年度繰越金内訳 (郵貯定額貯金 5,198,211円) + (郵貯通常貯金 789,727円) = (合計 5,987,938円)

おおとり会会員名簿変更についてのお願い

住所変更および住居表示変更の場合は各科の名簿係またはクラス幹事までご連絡ください。
尚、クラス幹事は変更内容を各科の名簿係にお知らせください。変更はホームページ上でも受け付けております。

- ★国文学科 萩倉あおい ○五四―二六四―一―二八
- ★英文学科 瀧 智子 ○五四―二四五―三七四四
- ★食物学科 赤堀美里 ○五四―三七四―二三七五
- ★被服学科 長田直子 ○五四―二六三―一三九三

(TEL・FAXは同じ番号です)

編集委員

- 石田加苗・岩崎たか江
- 加藤久江・森 恵美



おおとり会 ホームページへ ようこそ!



おおとり会の最近の情報を掲載しています。静岡県立大学のホームページからもアクセスできます。ぜひ、ご覧下さい。

★アドレス

<https://dousokai.site/ootorikaihp/>

訃報

令和二年三月九日寂

静岡県立大学名誉教授

(元静岡女子大学被服学科教授)

桑原 昂先生(九十七才)

令和二年十二月十五日寂

静岡県立大学名誉教授

(元静岡女子大学食物学科教授)

神谷 真太郎先生(九十二才)

令和三年二月三日寂

千葉大学名誉教授

(元静岡女子大学国文学科教授)

大津山 国夫先生(九十一才)

御冥福を心からお祈り申し上げます